



「ポスター『ちっちゃいミチ』」インスタレーション | 2025 | 可変 | 撮影場所：東京芸術劇場（東京都）

Michi OGAWA PORTFOLIO

<https://michiogawa.art/jp> michi@michiogawa.art <https://instagram.com/kazikaeru>

オカワミチ

私の制作は、身体からはじまる。
描いてみる、置いてみる、立ってみる。
「思ったのと違う」という創造と認識のずれが起きる。
この気づきは、私の視野を広げ、思考を刺激する。
その構造を分析し、再構築して確認する。

私の制作活動は、見て描くことから始まった。
観察する。「この世界を正確にとらえたい」という好奇心。
写真を見て描いても充足感は得られない。
今、この瞬間の事実だけが興味の対象だ。

身体は、こちらが気づく前に、環境を受け取っている。
「身体が何を受け取り、何を記憶し、何を考えているのか？」
作品は頭と身体をつなぐメディア。

自分の主観も、他者の主観も、見えるものも見えないものも。全部、混ぜたままにする。
省略しない、整理しない、まとめない。

自分の美観や正しいを、いったん横に置いてみる。
選ばない方を選ぶ。異物を放りこむ。自分を固定しない。

私を取り囲んでいる概念や常識が、
つま先で蹴り飛ばせる程度のものだとわかった瞬間、身体の立ち位置が変わる。
そのとき初めて、今ここに立っていることが分かる。

Artworks 2025

ジャンボミチとちっちゃいミチ Jumbo Michi and Tiny Michi

制作：オガワミチ | インスタレーション |
2025 | 可変
撮影場所：東京芸術劇場（東京都）
※IAG AWARD 2025 準IAGグランプリ受賞
作



Artworks

IAG AWARD 2025 EXHIBITION

私は描くことが好きで、目の前にあるものはとにかく何でも描いてきた。しかし、絵は「描いた瞬間から過去」になる。
時間、記憶、光、風。これらの「見えないもの」を取り入れることで、作品が動き、生きた今が描けるのではないだろうか。
この作品は当初、静止した線と動く影によって、過去の出来事が今と重なって感じられるのではないかと考えて制作した。
しかし実際は、両者は融合せずに、むしろ対比が強まった。
私はあらためて「時間は不可逆である」という事実を思い知らされたのだ。

展示風景 | 東京芸術劇場 (東京) | 撮影: オガワミチ、



試作段階 | ターナーギャラリー (東京)

IAG AWARD 2025 EXHIBITION

会場：東京芸術劇場 5階 Gallery 1&2

会期：2025. 11. 21-11. 30

区分：準グランプリ

作品：『ジャンボミチとちっちゃいミチ』

Exhibition

オガワミチのインスタレーションの前に立つと、まず「揺らぎ」という現象が作品そのものの中心に据えられていることに気づく。壁一面に貼り巡らされたドローイング。つまり、もっとも個人的で、もっともアナログな手の痕跡、その上に、光を受けてたえず揺れる布の影が溶け込んでいく。この“固定される線”と“揺れ動く影”の二重構造は、20世紀後半以降のインスタレーションが追求してきた「知覚の不確かさ」を更新する試みとして読み解くことができる。

特に、光と影を作品の本質的要素として扱う姿勢は、ジェームズ・タレルやオラファー・エリアソンといった光学的経験を拡張してきたアーティストたちの系譜を意識させる。しかしオガワの関心は「外界の光」を劇場化することではなく、むしろ“自身の身に起こった時間の堆積”を光学的な現象として再構成することにある点でユニークだ。ここで用いられるアクリル板は、パンデミック期に世界中で共有された「隔てる透明物」の記憶を帯びた素材でもある。彼女にとってこの透明な板は、単なるマテリアルではなく、「生と死の境界を示す、時代固有の膜」として機能している。

壁に貼られたドローイングには、9歳の自分が描かれている。幼少期の自己像と、パンデミックを経験した現在の自己像。そのあいだに吊り下げられたアクリル板

は、いわば“時間の隔たり”を可視化するスクリーンであり、影の揺らぎは、過去と現在が完全には重ならないことを告げる微細なノイズとして作用する。このズレこそが、彼女が追い求める「生きた作品」を生む力源になっているのだろう。

現代美術において、“見えないもの”記憶、空気、境界、時間を扱う試みは少なくない。しかしオガワの作品が特異なのは、これらの不可視の要素を、社会的出来事（パンデミック）と個人的出来事（祖母の死、病）という複層の文脈を通して扱っていることだ。つまり彼女の作品は、個人史と世界史が重なり合う地点で発生する「存在の揺らぎ」を、そのまま物質的現象として提示しているのである。

このインスタレーションは、私たちがパンデミック以降ずっと抱えている感覚、過去に触れようとする指先の前で揺らいでしまうようなあの不確かさを、驚くほど誠実に封じ込めている。静止した線描の奥に、動く影が滲み込み続ける光景は、まるで「生は静止しない」という当たり前の事実を、観る側にそっと思い出させるようだ。



<メディア掲載>



https://note.com/osamuwatanabe/n/n1a713d32a62e?magazine_key=mb40e7d649efe

Note 渡辺おさむ (IAG AWARD Official Commentary) | 2025. 11. 29

Artworks

2025-2026

多摩川グラフィティ～ 境界とは何か～ Tamagawa Graffiti: What Is a Boundary?*

制作：ミカ星（オガワミチ+石倉かよこ+館
星華） | インスタレーション | 2025 |
5000×3000×5000（可変可）
撮影場所：川崎市岡本太郎現代美術館（神奈
川）



EXHIBITION

第29回 岡本太郎現代芸術賞展

会場：川崎市岡本太郎美術館（神奈川）

会期：2026. 1. 31-3. 29

区分：入選展示

作品：『境界とは何か 多摩川グラフィティ』



搬入・展示風景 | 撮影：オガワミチ、館星華、Fly-D

私たちは境界に囲まれている。

細胞、皮膚、脳と身体、集団と個体、環境と生命。もっとも身近で厄介なのは、自身の観念や認識だ。

気づかない、越えられない。先にしか、新たな世界は見えない。

コレクティブは、容易にそれを実現する。

私はここに、自分とかけ離れた人材を配置した。

「嫌だな」自分の美観をいったん、横に置く。破綻と思っていたものが、時間で変化する。

これはいいんじゃないかと思う。



<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/31562>

“岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を（中略）第29回の入選者が発表された。今回は644点（前回579点）の応募のなかから21組が入選。”（美術手帖オンライン）2025. 10. 22



「ミカ星」

（オガワミチ＋石倉かよ＋館星華）

2025年結成。様々な理由で、制作キャリアが中断したりレイトスターターという共通点がある。マージナルな視点で、個性をぶつけ合い新しい表現を切り開く。

Artworks 2025



この世界にはたくさんの存在があるのに、
私たちはいつも、その一部しか見られないのだ。

This installation uses video, drawing, discarded acrylic panels from the COVID-19 period, and light and shadow. Although countless forms of existence surround us, we are only ever able to perceive a fragment of them.

Tamagawa Graffiti : SEED

多摩川グラフィティ:SEED

Michi OGAWA | Installation (video art, drawing, acrylic panels used during the COVID-19 pandemic, light and shadow)

Dimensions variable (approx. 3000 × 2700 × 2000 mm) | 2025

Artworks

2025

SAYONARA ALTA

さよならアルタ

Michi OGAWA | An installation incorporating acrylic panels used during the COVID-19 pandemic, painting, and light
Dimensions variable (approx. 1800 × 2000 × 1000 mm) | 2025



Artworks

2023-2024

コロナ渦以降、不要となった
アクリル板を支持体として制作した
ペインティングシリーズ。Ref-rection



上:電波塔(2024)、下:いちようが見える空(2024)

Reflections on acrylic echo between works, creating a space in constant flux.
アクリル板の反射が繰り返され、作品同士が響きあう空間となる。



Ghost touch COVID-19 ゴーストタッチCOVID-19

Michi OGAWA | An installation incorporating acrylic panels used during the COVID-19 pandemic, painting, and light

Dimensions variable (approx. 1800 × 2000 × 1000 mm) | 2025

URL : https://youtu.be/BkwCo1LK_xs

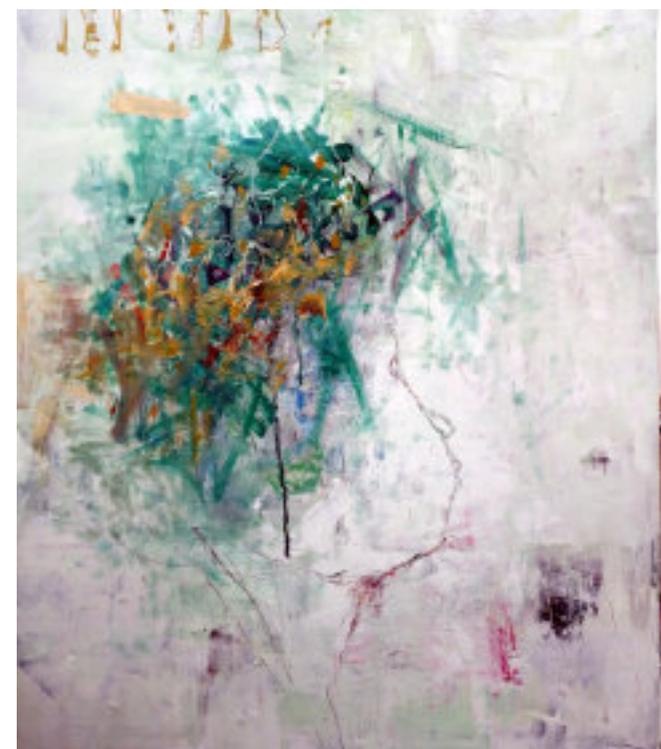
Artworks

2019-2022

描くことで、自身の痕跡を残す。
コロナ渦の中で自然と増えてきた作品。
ドローイング、油彩を中心に。



自画像



その他の展示・実績資料

Exhibition 2025

オガワミチ個展～おまけで雨～

会場：アートコンプレックスセンター（東京）

会期：2025.1.28-2.2

区分：ACTアート大賞展2024 受賞企画個展

作品：『雨上がりにバスタへ』ほか



<メディア掲載>

展示風景



●アートコンプレックスセンター公式 Youtube
による展示紹介動画

[https://www.bing.com/videos/riverview/
relatedvideo?
q=act+art+%e5%a4%a7%e8%b3%9e%e5%b1%95+20
24&mid=692B366BAAA2F3E67D52692B366BAAA2F
3E67D52&FORM=VIRE](https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=act+art+%e5%a4%a7%e8%b3%9e%e5%b1%95+2024&mid=692B366BAAA2F3E67D52692B366BAAA2F3E67D52&FORM=VIRE)

●展覧会「おまけで雨」に当社提供の亚克力板が
使用されました。

(株式会社ビーモーション公式サイト2025.1)

“不要になった資材の再利用を通じて、創作活
動や持続可能な社 会の実現にささやかな形で
貢献できることを嬉しく思っています。”

[https://www.bemotion.co.jp/information/
7033/](https://www.bemotion.co.jp/information/7033/)

その他、複数のメディアにて紹介

日常の光景が織りなす透明感の世界

ACTアート大賞展2024 最優秀賞受賞企画個
展。日常の一瞬に宿る特別な瞬間、光と自然の
移ろい、透明感を感じさせる表現をテーマに、
亚克力板やドローイング、蜜ろう技法を使用



Exhibition 2025

余白のアートフェア | 福島広野

会場：双葉群広野町公園（福島広野）
会期：2025.1.25-1.26
区分：アートフェア



●余白のアートフェア公式 Youtubeによる展
示紹介動画
<https://www.youtube.com/watch?v=3R29E7d0mQk>



展示風景



余白のアートフェア福島広野 会場割り振り の覚え書き
その5 (パークギャラリー)
2024年ACT大賞受賞のオガワミチさんはつるつるの表面が意表を突く

EXHIBITION 2025

NAMIKI AiR 2025



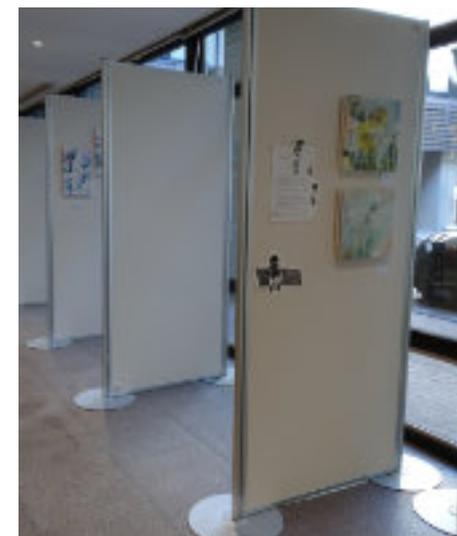
多摩川アートキャラバン！

会場：昭和女子大学（東京）
会期：2025. 11
区分：入選者展（佳作）
作品：『多摩川グラフィティモックアップ』



「余白のアートフェア 福島広野 ed2 ～未決の風景～」

会場：広野中央体育館（福島県）
会期：2025. 12. 14-12. 15
区分：アートフェア
作品：『透明性のアーキテクチャ』ほか



聖心女子大学グローバルプラザ×余白 のアートフェア ポップアップ展」 ※戦時ウクライナのフェミニズムアートの 現在と震災と向き合うアーティストによる 展示

会場：| 聖心女子大学（渋谷区・東京）
会期：2025. 11. 24
区分：ポップアップ展
作品：『電波塔』ほか

Exhibition 2024

ACT アート大賞展2024

会場：アートコンプレックスセンター（東京）
会期：2024. 4. 4-4. 7
区分：最優秀賞
作品：『浜辺のケチャップ瓶』



表彰式の様子

<メディア掲載>

●審査員講評

“独特のマチエールと調和の取れた色彩が際立つ秀逸な作品（丸山浩司）”

“最優秀賞を受賞されたオガワミチさんの作品は、一次審査の時から注目していましたが、審査員全員の高い評価を受けて最優秀賞に決定致しました。”（車 洋二）

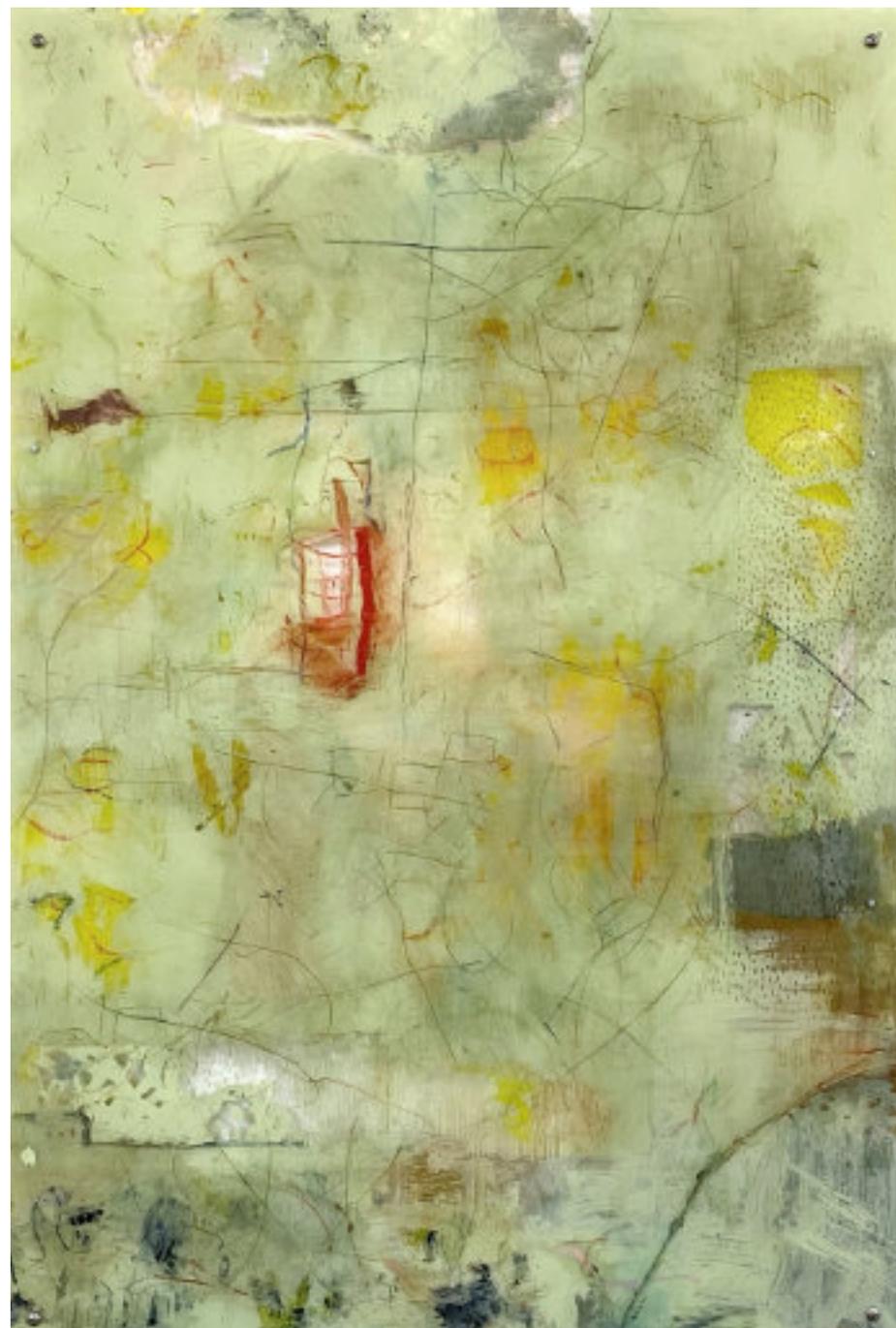
アートコンプレックスセンター公式サイト
2025. 10. 22

<https://www.gallerycomplex.com/c/aaa2024/>

その他、美術の窓など複数のメディアにて紹介

浜辺のケチャップ瓶 Ketchup bottle of the beach

2023/ACRYLIC AND OIL
PASTEL, AQUILA ON ACRYLIC
BOARD/90 × 60CM



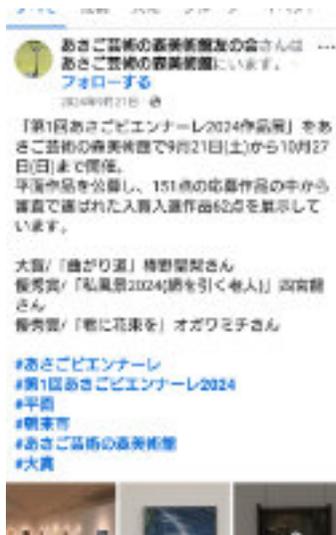
EXHIBITION 2024

あさごビエンナーレ



第一回あさごビエンナーレ

会場：あさご芸術の森美術館（東京）
 会期：2025. 1. 28-2. 2
 区分：入選・入賞者展（優秀賞）
 作品：『君に花束を』



あさご芸術の森美術館友の会公式
 Facebook
<https://note.com/bemotion/n/na4a1b72ff3c3>

ASAGO BIENNALE 第1回 あさごビエンナーレ2024

大賞は椿野聖梨さんの「曲がり道」

「第1回あさごビエンナーレ2024」を、8月21日(日)から10月27日(日)まで、美術館2等企画展示室で開催しました。

同展は、「朝来2001野外彫刻展」多々木直木「あさご芸術の森大賞展」「あさごアートコンペティション」に続く第4ステージの公募展です。時代の変化に合わせて形を変えて発展的に芸術界に貢献することや、若手作家の支援を目的として、2024年度、新たに立ち上げました。平面作品と立体作品を毎年交互に募集する形としています。

今回は8号サイズ以内の平面作品を募集。全国25都道府県の111人から油彩画、日本画、写真、ミクストメディアなど様々なジャンルの作品151点が寄せられました。

9月11日(日)に、取上義太郎(美的評論家)、平田オリザ(芸術文化観光専門大学学長・演出家・演出家)、鎌井峰子(写真家・大阪芸術大学教授)、椿野治二(平面彫刻作家)の4氏によって、「現代アート」の視点で、厳正に審査が行われました。その結果、大賞には、椿野聖梨さん(朝来市)の「曲がり道」が選ばれました。椿野さんは、これまで朝来市が行う「朝来からの道〜朝屋 絵画会」で大賞、「あさごアートコンペティション」で入選という受賞歴もある若手作家です。

なお大賞と優秀賞受賞の作家には、次年度以降、当美術館で展覧(グループ展)を併催する権利が付与されます。

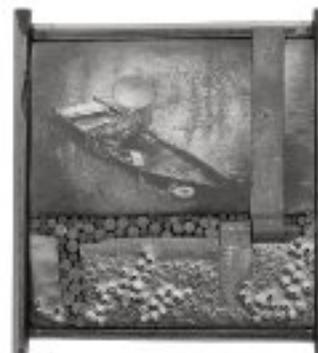
優秀作品の展覧会では、入賞入選作品62点を展示。観覧者からは「レベルが高く、バラエティに富んだ見応えのある展覧会だ」とのお声もいただきました。



大賞「椿野聖梨」曲がり道

<椿野聖梨さんの制作背景>

何気ない景色の中に潜り笑みを、その影に存在する物体の影の形を主に描くことで表現することを試みました。「曲がり道」は仕立ての中にある道です。すぐ先の大道の中にも多くにぎやかですが、一番その道へ人々が集まる様子が写っています。その写りから描きとられ制作しました。



優秀賞
 岡崎賢「私風情2024(朝を引く老人)」

<岡崎 賢さんの制作背景>
 在野の美術は、私たちに豊かな文化生活を育んでくれたものの、現実逃避や大げさなことで私たちの生活を壊していることは残念に思います。そこで、世の病気を脱却し歩みを進め、世の中に蔓延している洗水や廃材を利用し作品化することで、私たちが暮らすものの魅力や平穏さを表現しました。



優秀賞
 オガワユミ「君に花束を」

<オガワ ユミさんの制作背景>
 私の制作テーマは豊穣な自然素材と自己を認めることです。この作品は、息を吐き出し行方不明です。赤と緑の植物で、花束と人形を半似非真に描き、アクリル感の影が立体感を生み、顔と身体が重なる風、えんが、夢の入り口や自己の不確かさを表現しています。

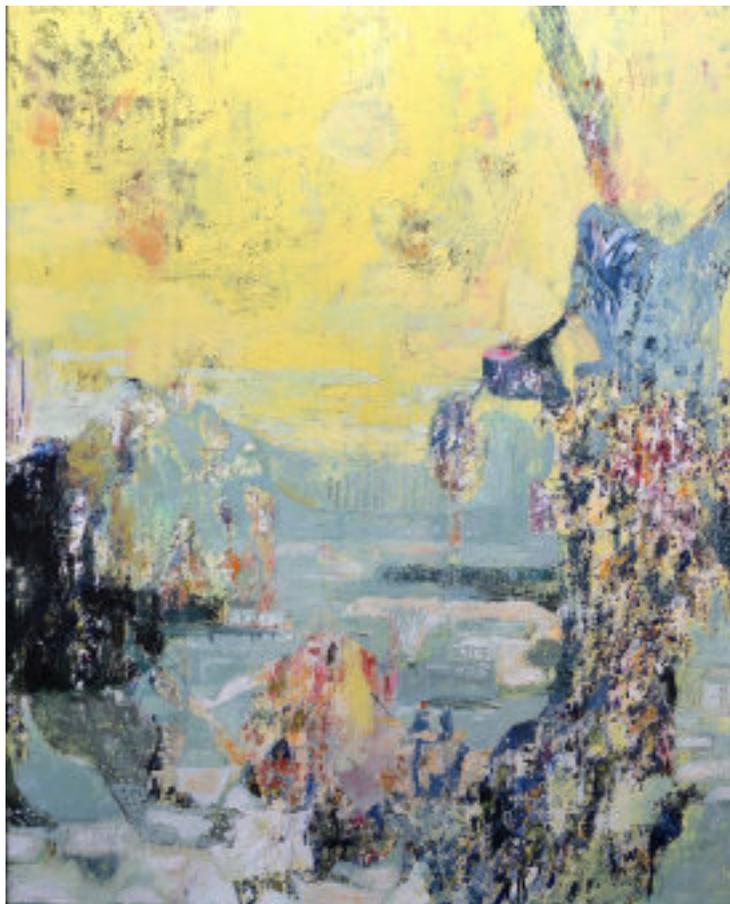
表彰式

第1回あさごビエンナーレ2024の表彰式を、観覧会最終日の10月27日(日)に美術館で開催。



EXHIBITION 2023-2024

上野の森美術館大賞展、宮本三郎記念デ



第四十二回 上野の森美術館大賞展

会場：上野の森美術館（東京）
会期：2024. 4. 27-5. 8
区分：入選展
作品：『流水を行く』 Oil on canvas
1620*1300mm



第七回 宮本三郎記念デッサン大賞展
会場：宮本三郎記念美術館（石川）
会期：2023
区分：入賞者展
作品：『ゆりとしゃくなげ』

EXHIBITION 2021～2022

展示実績



ふたりてん「奥山のりこ×オガワミチ ～線と面の波動～」
会場：並樹画廊（東京）
会期：2022
区分：自主企画個展



ふたりてん「奥山のりこ×オガワミチ』
会場：並樹画廊（東京）
会期：2021
区分：自主企画個展



メディア出演：中央エフエム ラジオシティ
出演日程：4月20日、22日、27日
(Hello! Radio City 12:00～13:00)

<https://www.atpress.ne.jp/news/300908>

2022

Research Notes / 研究ノート

私の制作の動機は、この世界に対する好奇心である。アクリル板を用いた半立体作品や、身体全体で体感するインスタレーションも、素材の痕跡や光・影。それによって、知覚や認知を揺さぶり、自分自身を観察する。身体から感じる違和感をたぐり、解体し、再構築する。

身体は呼吸をするように膨大な情報を集めている。身体が先に気づくしくみを知ることで、社会と身体とのずれに気づき、私を取り囲む概念に気づけるのである。

身体性について

現在の研究は身体の記憶がテーマである。

乗り方を覚えた自転車。

滑れるようになったスキー。

一度覚えて忘れないもの。

なぜそうなるか？ではなく、どうやってそうなるか？

自らの身体と意識を観察し、それらを並置する。



Resarch 2026

身体記憶・左利きの書道

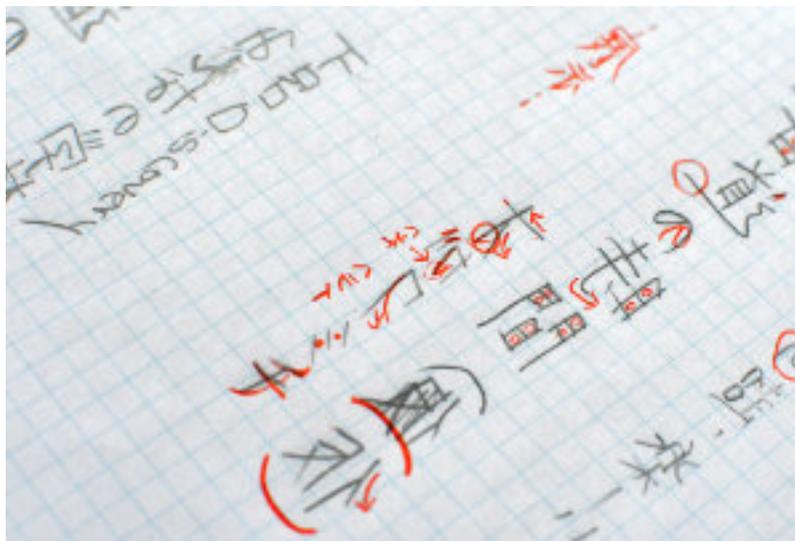
会場：自宅にて

期間：2026. 1. -進行中

区分：研究

内容：個人での研究・制作 |

自身の左利きの身体と、文字のズレから、身体記憶と自身の観念の関係を考える。
左手で鏡文字の書を書き、どのような過程でそれが身についていくか？を観察している。
そのプロセスを空間や一点の作品へと展開する。



ノートに書いた鏡文字。



書いた文字を吊るしてみる



同じ文字を反復。



光・影・風

この世界を動かしているものは何か。
今、ここ。を取り入れる。



Artist Studio Residency

NAMIKI AiR 2025

会場：並樹画廊市川BRANCH（千葉）

会期：2025. 7. 1-8. 31

区分：スタジオレジデンス（セルフプロデュース）

内容：個人での研究・制作 | 3名での共同制作 | 差し箱づくりワークショップ | NAMIKI AiR 2025 成果展

参加アーティスト：オガワミチ、石倉かよこ、館星華

見えないものを空間に取り入れることを目的に、光や風の実験を行った。



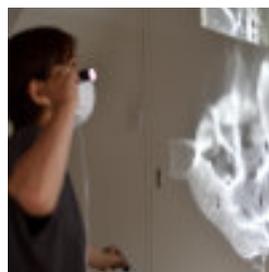
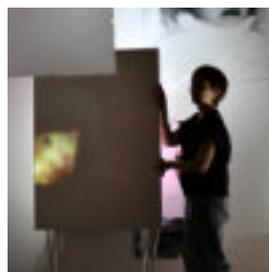
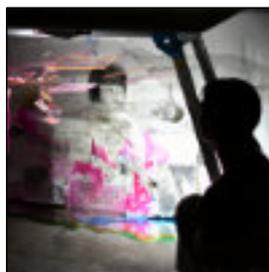
リサーチの様子



制作：壁にできた影をトレースしてみる



ワークショップの様子



研究や制作を繰り返す。出来上がった作品をs詠歌店で発表した。

Resarchbased 2023～

他者の記憶を共有する。写真の記憶

会場：並樹画廊市川BRANCH（千葉）

期間：2023. 12. -進行中

区分：リサーチ

内容：個人での研究・制作 |

自宅にある古い写真と、母の記憶をもとに、それらを自分ごとのようにとらえられないか？という試み。写真を木片に転写し、関係のある場所に置く。置くという行為が「そこにあった」という実感につながる。

これを基に、リサーチ時のアーカイブ動画を作成。のちに、写真を使ったドローイングアニメや、動画を使ったインスタレーションへと発展している。

現在は、「置く」という行為に着目し、文脈の無いホワイトキューブへと翻訳できないかと思考している。



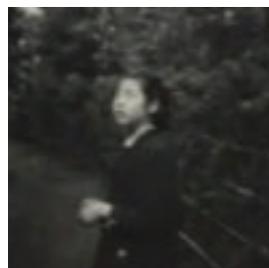
インスタレーションの様子



記憶の共有インタビュー。



ドローイングアニメーションへの展開（プロジェクターでの映写）



世代を超えて使われてきた、縁側。曾祖母、祖母、母、私。築百年の家の記憶

Resarch 2021-2025までの展開

絵画のメディウム性～空間への展開

期間：2019-進行中

区分：研究

内容：個人での研究・制作 |

描いたものはその瞬間過去になる。スケッチを作品に落とし込めない。

時間の積み重ねよりも、今この瞬間。

制作活動当初は、ドローイングによってなし得ようとした。動く人物や車窓で通りすぎる風景。

のちに、ミツロウやトレーシングペーパーといった半透明の素材を支持体に塗ることで、時間の層を作り上げた。

コロナ渦で不要となったアクリル板を導入してからは、透明な板を時間という見えない層として扱い、

その表現は徐々に空間化していった。

「見えないものが世界を動かしているのではないか？」

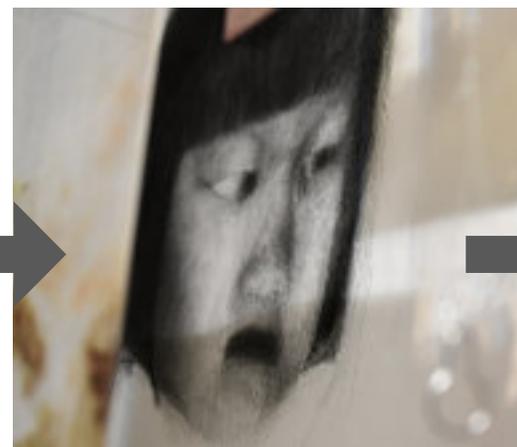
不可視な存在を空間に配置した研究を行っている現在。



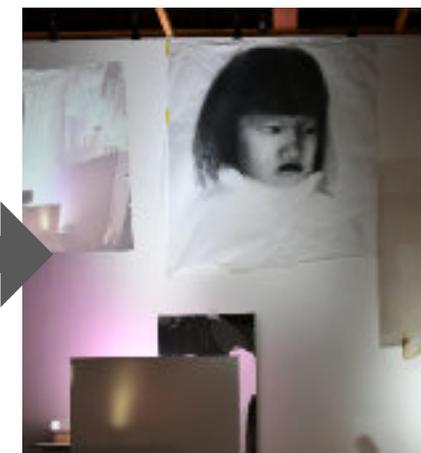
車窓から動く景色を描く



時間を閉じ込める。
みつろうをつかう。



コロナ渦で使っていたアクリル板の影をドローイング
に映す



さらなる空研への展開

今を描きたい。（制作ノートより）

“反復すること。観察すること。”

Repetition and Observation as a Method



日照によって色が変化する繭



土を集めて絵具を作る



プログラムの実践と観察

私の根底には、生命賛美と自己を見つめるという、神道と仏教の入り混じった宗教観がある。幼児期の環境、母の生活哲学に影響されている。野草採集、玄米食。ニワトリを飼ったり、畑づくり。整体、座禅。

この背景を意識するようになったのは、梅原猛『地獄の思想』を読んでから。そして、雑木林に囲まれた、あそび場の管理に従事して、実践へ向かった。

私たちは、落ち葉たきや草木染などを行い、子どものあそびや環境学習が、フィールドの管理につながる循環型管理を行った。

同時にモニタリング調査や自然エネルギー利用、昆虫、植物観察など科学的視点も取り入れた。日本の自然観と科学的思考の両輪。

一方で私は、どうすれば人は、「自然」のありようを総合的に理解できるのか？を考えてきた。私は、こどもたちを相手に、プログラムを考え、実践し、その反応を観察しつづけた。重視したのは、「反復すること」。人は、一度見たり聞いたりすると、「わかった気」になる。

自然は常に変化し、私たちが常に変化する。その時々で受け取るものが異なる。

デッサンで、モノを理解する行為と同じ。私の研究手法の基礎はここにあり、現在も研究は「知覚の反復」から始まる。

写真①自身で育てたヤママユの繭

写真②土は何色？という問いに、子どもたちが答える色で、出身地が異なる。

写真③実践の様子

写真④死の直前の祖母のデッサン



祖母と最後の時間

オガワミチ Michi OGAWA

現代美術家



東京都在住。

【職歴】造園業を経て、京都で公園管理のソフト事業へ。
宝ヶ池公園子どもの楽園 プライパークの運営管理や環境
学習事業に取り組む。家庭の事情で退職し、東京の実家へ
移ってから、本格的にアート活動を開始する。

<CONTACT>

<https://michiogawa.art/jp>

michi@michiogawa.art

<https://instagram.com/kazikaeru>



CV

Education

2020年京都造形芸術大学通信教育部洋画コース卒業。

Solo and Two-Person Exhibitions

- 2025 「オガワミチ展 Ref-rection」 | 並樹画廊 (東京)
- 2025 「受賞企画個展 おまけで雨」 | アートコンプレックスセンター (東京)
- 2021-2023 「おくやまのりこ×オガワミチ」ふたり展 | 並樹画廊 (東京)

Selected Group Exhibitions

- 2026 「第29回 岡本太郎現代芸術賞展」 | 川崎市岡本太郎美術館 (神奈川)
- 2026 「SAGA ARTIST FAIR 2026」 | EDAUME (旧枝梅酒造) (佐賀)
- 2025 「IAG AWARD EXHIBITION 2025」 (準グランプリ) | 東京芸術劇場 (東京)
- 2025 「Namiki AiR 2025 成果展」 | 並樹画廊イチカワBRANCH (千葉)
- 2025 「余白のアートフェア 福島広野 ed2~未決の風景~」 | 広野中央体育館 (福島)
- 2025 「余白のアートフェア | 福島広野」 | 双葉郡広野町公園 (福島)
- 2025 「聖心女子大学グローバルプラザ×余白のアートフェア ポップアップ展」 | 聖心女子大学 (東京)
※戦時下ウクライナのフェミニズムアートと震災をめぐる企画
- 2025 「多摩川アートキャラバン！」 (佳作) | 昭和女子大学 Learning Commons (東京)
- 2025 「第8回 宮本三郎記念デッサン大賞展」 (入賞) | 小松市立宮本三郎美術館 (石川)
: 巡回展 | 世田谷区立美術館 区民ギャラリー (東京)
- 2024 「第一回あさごビエンナーレ」 (優秀賞) | あさご芸術の森美術館 (兵庫) ※優秀賞
- 2024 「ACTアート大賞展 2024」 (最優秀賞) | アートコンプレックスセンター (東京) ※最優秀賞
- 2024 「第42回 上野の森美術館大賞展」 | 上野の森美術館 (東京)
- 2023 「第7回 宮本三郎記念デッサン大賞展」 (入賞) | 小松市立宮本三郎美術館 (石川)
: 巡回展 | 世田谷区立美術館 区民ギャラリー (東京)

Awards, Grants

- 2025 IAG AWARD 2025 (IAG準グランプリ)
- 2024 ACTアート大賞展 2024 (最優秀賞)
- 2024 第一回あさごビエンナーレ (優秀賞)
- 2019-2020 京都芸術大学 学生創作研究助成金

Residencies, Collaborativ

- 2025 Namiki AiR 2025 | 並樹画廊イチカワBRANCH (千葉)
- 2025- コレクティブ「ミか星」 | 石倉かよこ、館星華との共同実践

Publications

- 2022 『土はちきゅうのたからもの』 | 生活クラブ京都エル・コープ (絵)
- 2019 『京都産ヤママユ類がカマツカを食べる』 | 『野蚕』第85号 (共著)
- 2014 『「宝の森」で育つコミュニティ』 | 『公園緑地』第75巻第1号 (共著)